

# 第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

兵庫県立こばと聴覚特別支援学校

C-11

## 【活動名】 情報共有と共通理解から生まれる力

### 解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

ベテラン教員の退職や異動に伴い、若手教員や聴覚障害児教育の経験の浅い教員が増加した。授業研究や聴覚支援に関する専門的な研修を実施するほか、教員一人一人の意識を高め、学校力を底上げすることが急務であった。

### 目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

本校は教員数が少ないため、教員は一人で複数の役割を担っており、これまで培ってきた専門性がその教員だけのものになっていたり、新しい教員に十分に引き継がれていなかったりすることがある。聴覚障害児教育に長年携わってきた教員の退職や異動に伴い、校務を円滑に行っていく上で専門性の継承や発展も課題となっている。特別支援教育制度が始まって 10 年余が経過し、本校においてはコーディネーターを配置し、地域における聴覚特別支援教育のセンター校としての役割を果たしつつその充実を図っている。

### 活動内容： 何をしましたか？

#### 1 求められる資質能力

聴覚障害児へのより専門性の高い指導力、専門性の習得のため、本校の教員として求められる資質能力を以下の 2 点に整理した。

- (1) 教員として教育全般に関すること（教務、安全・防災、人権教育、生活指導、情報教育、特別支援教育、年次研修等、法律・制度を含む）
- (2) 聴覚障害児教育に関する知識・技能（聴覚障害特性の理解、コミュニケーションや言葉の指導法、手話の活用、センター的機能の充実等）

#### 2 教員研修の分類

上記の 2 点の資質能力を基に、校内研修と各研修の目的を教員が意識できるように以下のように分類し実施した。

- (1) 校務分掌 人権教育、心肺蘇生法・AED、不審者対応、アレルギー対応、防災教育
- (2) 学習指導 研究授業及び授業研究会、聴覚学習情報交換会、発音指導学習会、人工内耳装用児ケースカンファレンス
- (3) 専門性向上 補聴機器等に関する研修、聴覚障害児教育研修会、手話研修会
- (4) 新・転任研修 学校概要、手話の基礎、聞こえの仕組みと難聴

学習指導に重点を置き、担任全員の研究授業を行った。同日放課後に授業についての研究会を持ち、学部全員で授業改善に向けて協議した。

また、専門的な知識・技能を必要とする研修では外部講師も活用し、教育の分野のみならず、地域・警察・行政・医療機関の協力をいただいた。

聴覚障害児教育研修会を開催した時は校外にも呼びかけを行い、他校からも教員の参加が有り、研修内容を共有した。

#### 3 各研修に出席した教員による報告会

この他、校外で行われている県教育委員会主催の研修会および課題別希望者研修や聴覚障害児教育関連（全日本聾教育研究会、近畿地区聾教育研究会、関東地区聾教育研究会、近畿地区発音発語研究会、近畿教育オーディオロジー研究協議会など）で担当者や希望者が研修を受けた場合に、出席した教員が研修会後できるだけ早い機会に校内で伝達研修会を開いたり職員朝礼や職員会議時に報告したりするなどし、伝達を徹底し、教員全体で共有するようになった。

### 活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

担任全員が研究授業をすること、それについて管理職を含み学部全体で研究会を持って授業改善に取り組むことにより、「最初は緊張したけれど、研究会で意見をもらって新しい発見があった。」「たくさん気がついた。もっと良い授業をしたい!」と、教員一人一人の意識改革に繋がった。

様々な研修会の実施及び伝達研修会や出張報告会等により、各教員が県全体の動きや取り組みを知るとともに、教育全般と聴覚障害児教育に関する最新の知識や情報を得られ、日々の教育活動に活かすことができた。どのような研修があって誰がいつ参加しているのかがわかり、「この部（分掌）でこんな仕事をしているんだなあ。じゃあ次にわからない時はこの先生に相談しよう。」とか、「他校でも同じような事があるのがわかった。今いる子どもたちに、楽しめる活動を精一杯したいと思った。」とか、交流及び共同学習実施例の報告を受けて、「高校生はこんな事を思っているのか・・・うちの交流の参考にしたい。」などの声があがった。エンパワメント研修の報告があった時は、生産性の低下を招く要素としてどんなものがあるか身の回りにも目を向け、職員室の椅子や座り方でも生産性の向上につながる事がわかり、学校全体で改善につなげた。これらのように、各研修に出席していない教員にも、それぞれの研修の目的や、今後各自が自分に関係する分掌等でどのようなことに取り組んでいく必要があるかなどについて、共有できた。また、様々な分野でバランスよく研修に取り組もうとする意識が持て、次に自分自身にはどのような研修が必要なのかについて各自が考えるようになってきた。さらに、それぞれの分野についてより詳細に知る必要がある時には誰に尋ねればよいかわかり、専門性についての教員間の相互理解が進んだ。

また、研修の形態をとらなくても、教員間で自然に情報交換をしたり、助言をし合ったりしやすい雰囲気が出てきた。整理し、研修目的や内容等を全教員に周知することにより、一人一人が研修の意義や必要性を理解し、校務に活かしたり計画的に研修を受けたりする意識を育てることができた。

報告者も、「報告をしている時に、あいづちをうってもらったり『そうなんだ』の声があったりすると嬉しいし、役に立てたと思う。（この事をしているのが）ひとりじゃないと思う。一緒にやっている気がする。」と一体感を得ていた。

情報共有と共通理解により、課題解決に向けて教員全体での取り組みとなり、学校力が高まった。

### アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

『各研修に出席した教員による伝達研修会や出張報告会の力』

研修会に参加した教員が、できるだけ早い機会に校内伝達研修会や出張報告会を持ち、資料配布のみではなく説明や報告の形態をとったことで、上記の成果のように学校力を高めると共に、報告担当者にとっては研修内容を的確にまとめて話す経験やいろいろな立場の教員が全職員の前で発表する機会を得ることもなり、一人一人の研修に対する意識も高まり、教員の資質向上に繋がった。